

## 大船での開業

2020年4月大船にて、はつ花皮膚科クリニックを開院しました西山浩美と申します。1998年北里大学を卒業し、北里大学皮膚科に入局しました。その後、東京都老人医療センター（現東京都健康長寿医療センター）、鹿島労災病院、聖路加国際病院、JCHO相模野病院、座間総合病院を経て、開業準備のため約2年間クリニック勤務をさせていただき、開業に至りました。

開業予定地として当初は、医療過疎地の東北地方で地域医療に貢献したいという希望があり、福島県での開業を考えておりました。地域医療に貢献したい、とたいそうなことを述べましたが、温泉好きの自分にとって福島県にはいい温泉がたくさんある、というよこしまな気持ちもありました。そんな中、医局の先輩の先生から、コスモス皮膚科の犬井三紀代先生が継承者を探しているからやらないか、と声をかけていただき、とんとん拍子で継承が決まりました。開院した当初はコロナ禍で緊急事態宣言が出された頃のためか、1日の来院患者さんは数人という状態が続きましたが、今ではようやく少しずつ患者さんも来院してくださるようになっています。

当院の診療の特徴として皮膚科領域の訪問診療と、週2日ですが20時まで診療をおこなっていることがあげられると思います。開業前に勤務していたクリニックでは訪問診療に携わらせていただき、訪問先で患者さんから喜ばれることもありましたので、自分が独立した時も訪問診療をやろうと考えていました。医師は自分ひとりのため、診療日の火曜、水曜、金曜は昼休みの時間を使って、比較的近い患者さんの自宅を訪問しています。木曜と土曜は午後の外来診療を休診にして施設やクリニックから距離のある患者さんのご自宅に訪問しています。他医療

## 西山浩美

はつ花皮膚科クリニック  
(鎌倉市)

機関などから訪問診療を依頼していただいても、すぐに伺えずかなりの日数をお待たせすることもあり、大変心苦しく感じておりますが、皮膚科の訪問診療を待ってくださる患者さんがいる限りは続けたいと思っています。また、20時



までの診療としたのは、開業前に公務員の友人の、「夜8時まで病院がやってくれとありがたいなあ」という発言を参考にしたことです。学校帰りの学生さんや、帰宅途中の会社員の方などに気軽に受診していただければと思い、自分の体力を考え週2日だけではありますが20時までの診療としました。開院当初の2020年4月、5月は学校も休校で、夕方6時以降に来院される方はほんのわずかでしたが最近徐々に増えてきており、世の中も徐々にコロナ禍前の生活に戻ってきているのだと実感しています。

今回、開業にあたり、たくさんの先生方から励ましの言葉やアドバイスをいただきました。開院当初は不安しかありませんでしたが、なんとか2年続けることができたのも、ひとえに諸先生方のおかげだと思っております。この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。これからも健康面に注意しながら末長く診療に携わっていけたら、と思っております。

今後とも何卒よろしくご厚意申し上げます。

## 訪問診療とフットケア

今井亜希子

ひかり在宅クリニック  
(横浜市戸塚区)

神奈川県皮膚科医会の先生方には、いつもお世話になっておりありがとうございます。このページをお借りして、私が今やっている主な仕事2つについてお話しさせていただきます。

「ひかり在宅クリニック」は、2015年に主人が開業した在宅療養支援診療所です。所在地は戸塚駅西口近くで、国道も横浜新道にもアクセスが良く、車での移動に便利なところ。2020年に同じビルの3階から1階に移転しました。主な訪問エリアは戸塚区内のほか、近隣の港南区、泉区、保土ヶ谷区、栄区、南区、藤沢市の一部です。外来は現在皮膚科のみで、予約制で開いています。訪問診療に関しては、内科と併診で訪問診療をしているケースもありますし、皮膚科だけ往診しているというケースもあります。訪問先でも外来とほぼ同じことができるように、皮膚科処置セットと爪治療セット、必需品のノートパソコン（クラウド型電子カルテを使っています）とポケットWiFiの入ったバッグを抱え、看護師と一緒に車に乗ってあちこち移動しています。診ている疾患は、皮膚炎や感染症などの一般的なものがやはり多いのですが、患者さんのほとんどが高齢者のため、褥瘡や虚血性潰瘍など慢性創傷の割合が高い印象があります。在宅医療に関わってから、病院に勤務していた頃はわかっているようで知らなかった、独居老人や老々介護といった超高齢社会のリアルを目の当たりにする日々です。最初の頃は訪



訪問時のようす

問先でいちいち（内心）びっくりしたり戸惑ったりしていましたが、最近ではそれなりに慣れてきました。

### 在宅あるある・その1「足の爪が切れません」

爪甲鉤弯症や爪白癬で爪が厚く変形しており、本人はもちろん、家族にも職員にも切れないというケース。訪問前から足浴をしておいてもらい、爪をふやかしてから切ると楽です。

### 在宅あるある・その2「脚の傷がじくじくして治りません」

在宅患者さんは寝たきりとは限らず、むしろ施設などでは「座りきり」のため、廃用性浮腫による下腿のうっ滞性潰瘍がとて多いのです。弾性包帯はいつも車にストックしています。

患者さんの多くは要介護状態なので、処置は訪問看護師に、生活面のサポートやケアなどは介護職にお願いしてやってもらうことになります。ホームヘルパー、施設のスタッフ、ケアマネージャーなど多職種の協力が本当に大切です。また地域の病院の先生方には、患者さんの急な紹介や入院依頼にいつもご対応いただいております、本当に助かっています。いつもありがとうございます。

訪問診療や往診をしている皮膚科医はまだまだ少なく、実際のところ足りていないのが現状です。ただ、クリニックを開業されている先生方が外来の合間で往診にも対応する、というのはあまりに大変です。今後は、訪問診療専門クリニックに所属する皮膚科医が増えるのか、遠隔診療が浸透していくのか、あるいは訪問看護師の特定研修が充実していくのかわかりませんが、外来を受診できない患者さんにも何とか皮膚科医の目が行き届くようにしないとけないと思っています。

それから、私が専門としているフットケアについてですが、クリニックでは訪問でも外来でもやって

います。外来には陥入爪や巻き爪などの爪疾患、鶏眼や胼胝、外反母趾などの足変形の患者さんが多く来院されています。足のケアや処置、簡単な運動指導をおこなっているほか、靴外来を月に一度開いており、足底装具（インソール）の処方もしています。この日は元町に店舗がある“ドイツ足の健康館・赤い靴”の方が来てくれているので、足の状態や姿勢、歩行を見ながら、靴やインソールをその場で調整することができます。

フットケアは、屈んで処置することばかりなので、首や腰を痛めやすいのが悩みです。移転を機に診察室に昇降式のリクライニングチェアを入れたので、こちらはだいぶ楽になりました。最近の新しい悩みは老眼が進んできたことで、細かい処置の時にだけメガネをかけるか、ルーペを



皮膚科処置セット



爪治療セット

使うのがいいか、遠近両用コンタクトにしようか、などと考えているところです。先輩の先生方には、ぜひおすすめの方法を教えてください。

## 皮膚科診療のイーハトーブを目指して

2021年1月に、六浦皮ふ科を開業いたしました。『六浦』といっても今は潮風を感じられませんが、中世鎌倉においては、房総半島と鎌倉を繋ぐ重要な外港で、江戸湾の港町として栄えました。源頼朝公が六浦山中に浄願寺を開き、現在の六浦道（朝夷奈切通）が開通しました。東方からの疫病や鬼などの邪悪なものを食い止める障壁として位置づけられ、金沢八景に通じる風光明媚な景勝地として広く知られるようになります。

明治時代には、海軍航空技術工員養成所が設置され、横須賀港とともに重要な拠点となりました。その後環境の良さが評価され、急速にベッドタウンとして発展していきました。

私は金沢区の南共済病院で生まれ、六浦で育ちました。その頃の六浦にはまだ住居が少なく、畑や空き地ののどかな風景が広がっていました。そんな小

## 花田美穂

六浦皮ふ科  
（横浜市金沢区）

さな田舎町を気に入って、北村和子先生が北村皮膚科を1980年に開業された頃、小学生の私は真っ黒に日焼けをして、里山を駆け回っていました。

横浜市立大学ではグラフに憧れ、硬式庭球部

に所属しました。テニスは下手でしたが、チームワークの大切さを学びました。テニスウェアを着て健康診断の列に並んでいたら、健康さを見込まれたので



尊敬する北村和子先生（左）は隔週で勤務されています

しょうか、山川有子先生に勧誘され、皮膚科学教室に入局しました。蒲原先生、岡澤先生、勝野先生、千葉先生、河野先生など素晴らしい同期に恵まれました。医局在籍時には池澤善郎先生、相原道子先生、長谷哲男先生他、諸先生方に助けて頂きました。この場を借りて感謝申し上げます。

南共済病院に勤務していた時、重症のアトピー性皮膚炎の患者さんを担当しました。標準治療をおこなっていましたが、かゆみが強くて眠れず、食欲もなく、元気がない状態で大変お辛そうでした。そこで漢方薬を追加したところ、アトピーだけでなく、他の症状も良くなりとても驚きました。この出来事を契機に漢方の必要性を痛感し、漢方専門の金匱会診療所で山田享弘先生、光胤先生に師事し、専門医の資格を取得し、日々の診療に活かす決意をしました。

循環器内科医の夫と結婚後は、主人の地元である東北に異動しました。最初の勤務先は、秋田県湯沢市でした。小野小町や菅前総理大臣の故郷として知られる土地です。秋田大学に所属し、真鍋教授ご指導の下、JA秋田厚生連雄勝中央病院皮膚科に科長として勤務しました。人情もたいそう厚い湯沢ですが、雪も深く驚きました。雪捨てにも縄張りがあり、お作法を知らずに雪を捨て、怒られました。当時病院の忘年会では、お笑い芸人のコロケや、新沼謙治風の演歌歌手を呼んでいました。宴会が終わると、お土産に新巻鮭の特大大まるごと1本といくらを頂きました。春は山菜、秋はマツタケ、おいしいハタハタや岩ガキ、お酒や稲庭うどんなどに合え、楽しかったです。秋田では、ヨモギ花粉症のある中学生が、カレーを食べて運動するとアナフィラキシーを生じる症例を経験し、抗ArtV1特異的IgE抗体陽性のセリ科スパイスアレルギーの2例として報告しました。

その後、盛岡に異動となりました。岩手医科大学では、赤坂教授、天野教授ご指導の下、アレルギー外来を開設しました。日本では珍しいLTP症候群や、三陸の漁師に生じたエラコ皮膚炎に伴う納豆によるアナフィラキシーの症例を経験しました。美容外来では、M22を用いたIPL治療を研究しております。岩手医大でも若い先生からエネルギーをもらい、大変楽しく臨床研究ができました。



桜満開のクリニックの前で、スタッフと

北村皮膚科では副院長として勤務し、尊敬する北村先生に公私にわたりご指導を賜りました。自分らしくやっていいと背中を押して頂き、継承を決意しました。生まれ育った愛着のある地で、北村皮膚科を継承し、開業医として新たなスタートを切ることができ、大変嬉しく思います。

現在私は、皮膚科の中でもアレルギー、漢方、美容に興味を持ち診療をおこなっております。開業後は、明るくて誠実なスタッフに囲まれて診療しています。北村先生には隔週で診察をお願いしており、難しい症例は相談しながら診療することができ、とても助かります。

開業後、周囲のたくさんの方々に支えられて、今の自分があることに気づきました。とくに六浦は母校の横浜市大や南共済病院に近く、大変心強いです。東北と違って、神奈川のレセプトは厳しく、泣きながらレセプト点検をしておりますが、不明点を大先輩の川口博史先生や高橋さなみ先生に気軽に伺えるので、ありがたいです。宮本秀明先生にも開業の心得を伝授して頂きました。予約システムの設定に関しては、菅千束先生に教えて頂きました。職員の離職や、グーグル口コミで評価1を連続で頂いた時などは、同時期に開業した内田敬久先生にグチを聞いてもらっています。

信賴して受診して下さる患者さんのためにも、学会、勉強会への参加などを通じて研鑽していきたいと思っております。今後ともご指導のほど何卒宜しくお願い申し上げます。